

伊達な
国際交流員の
つれづれコラム
vol.87



これらはアメリカと日本の学校の違いの一部であり、伊達市でさらに多くの文化の違いを体験することを楽しみにしています！（キャメロン）

学校の終わり
「スクールズ・アウト」
School's Out for Summer

英訳版を見る▶



アメリカの夏休みは、5月末から8月の前半まで約11週間（3カ月弱）も続きます。日本人は長すぎると感じるかもしれませんが、アメリカの子どもたちはみんな楽しみをしている時期です。

しかし、夏休みそのものだけが楽しみなわけではありません。小学生は、夏休み前の数日間、遠足などのアクティビティを行うことが楽しみでした。具体的には、地の公園で遊んだり、ボウリング場やローラースケート場に出かけたり、

昼にピザパーティーをしたりしていました。残念なことに、中学生になるとなくなってしまう。なぜなら、期末試験があるからです。しかし、夏休み前の楽しみは、高校3年生になると復活します。小学生の時は少し違い、通っていた小学校で1日を過ごす「シニアデー」（高校3年生の日）というものがありました。そこで昔の先生を訪ねたり、小学校のカフェテリアで昼食を食べたりしました。最終日には、バーベキューと水風船の投げ合いもありました。

地域の魅力
ふる里再発見

伊達地方と桑

令和6年度第1回企画展
伊達のお蚕用具展

6月1日(土)～9月23日(日)
伊達市保原歴史文化資料館

桑は蚕のエサとなります。かつて養蚕地帯だった伊達地方では、いたるところに桑畑がありました。現在でも田畑の境の目印に桑が残されていることが多く、かつての桑畑の名残を見ることが出来ます。伊達地方は昔から養蚕だけでなく優良な桑が育つ産地としても有名でした。明治時代に県の御用達だった保原町の渡辺源兵衛家の文書には、青森県や広島県など全国に桑苗の販売をしていたことがわかる仕切書（帳簿）があります。

伊達地方で良い桑が育つ理由として、地域の中心を大きな川が流れる地形にあります。阿武隈川を主として、川が栄養豊富な土壌を運び、桑の栽培に適した土地となっているのです。

桑苗栽培が特に盛んだった地域に梁川町向川原地区があげられ、昭和2年の年間生産高は128万本にも上りました。伊達市には、



桑品種「柳田」
福島県農業総合センター
2016.6 撮影

向川原地区で使用していた表皮を剥ぐ皮むき器や規格を図る桑苗定木などの桑栽培用具が残されています。これらを含む伊達市の蚕糸業関連用具1344点は、国重要有形民俗文化財の指定を受けています。

また、伊達地方が発祥の桑品種も数多く存在します。最古の桑品種といわれる「柳田」をはじめとして、「小幡」・「市兵衛（または市平）」・「六之丞」・「高助」など、いずれも江戸期に伊達地方で栽培が始まり、全国に広まりました。

皆さまも町に残る桑を探してかつての「お蚕どころ」に思いを馳せてみてはいかがでしょうか？

にじいろのだて(男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『プライド月間 (Pride Month)』… 毎年6月に、世界各地でLGBTQ+の権利を啓発する活動・イベントが実施される期間のこと。

